

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価

令和8年(2026年)3月18日

札幌市立盤溪小学校

1. 学校教育目標

人間性豊かな子どもの育成

2. 本年度の学校経営の重点

互いを大切に 笑顔あふれる学校の創造

3. 自己評価・学校関係者評価 (A:十分 B:おおむねよい C:やや不十分 D:不十分)

*満点が4点 「3.4」以上を「A」としています。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	自己評価及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点	「互いを大切に 笑顔あふれる学校の創造」に向けて取り組むことができたか。	A 3.4	④互いの考えを認め、共感し合う指導を重ねるとともに、多様性を認め子どもの声を聴いた。 ④トラブルに対し、引き続き複数で対応するとともに、児童が自律的に解決する力を育む。	A	A
人間尊重の教育の推進	よさに気付き認め合い、つながりをつくるどんぐり活動(縦割り活動)が充実していたか。	A 3.7	④校内研修により人権意識が向上し、適切な児童	A	A
	教育活動を通して個性や多様性を認め合い、互いを生かす態度が育成されていたか。	B 3.2	理解・指導に繋がった。異学年交流が思いやりの心や厚みのある人間関係を育む土壌となった。	A	A
	自分の役割を意識して行動したり、相手の思いを聴き自らの思いを表現したりする対話力が身についていたか。	B 3.2	④人間尊重の基盤として、全教育活動を通じた聴く態度の育成を図る。	A	A
学ぶ力の育	課題探求的資質の向上を目指し、自ら課題を見付け、学びの主人公になる子どもの育成を目指し授業を行っていたか。	B 3.2	④1人1台端末の授業での活用が定着するとともに、端末活用の利点と難しさの両面について検討を進めることができた。	A	A

	授業での1人1台端末の活用が効果的に行われていたか。	C 2.9	㊦端末の活用法を再考し、発達段階に応じた端末利用の必要性を見極めるとともに、端末活用における適切な見取りと評価の在り方を検討する。	A	A
	授業改善につながる学習評価が行われていたか。	B 3.3		A	A
健やかな体の育成	日常的に運動し、主体的な体力づくりの取組が行われていたか。*どんトレ、マラドサ、運動会、体力テスト、外遊びの推進、スキー学習など	A 3.6	㊦どんトレの学びを実践に生かしたり、各種活動の価値に気付き向上心をもって取り組んだりする姿が見られた。教員が児童と一緒に活動し、個々の良さを評価して引き出す指導が行われた。 ㊦児童によって活動への意欲に差があり、個人差への対応を引き続き検討していく。意欲的に取り組めるよう、成功体験を積ませるなど、モチベーションを高める指導上の工夫を検討する。	A	A
	運動機会の充実が図られ、技能が向上していたか。*上段に同じ	A 3.8		A	A
	自ら健康づくりに取り組む態度が育成されていたか。*上段に同じ	A 3.4		A	A
豊かな心の育成	温かく受容的な生活・学習環境があり、自分を肯定的に受けとめる態度が育っていたか。	A 3.6	㊦いじめや不登校の予兆に対し、迅速に組織的に対応するとともに、児童一人ひとりの特性を考慮したきめ細やかな対応に努めた。教職員全員で児童を見守る温かい雰囲気は築かれ、他者受容の心をもつ児童が育ってきた。 ㊦現在の組織的・複数対応の体制を維持し、さらに早期発見・早期対応の精度を高める担任一人に抱え込ませず、学校全体のチームとして児童の心を支える体制を継続する。	A	A
	道徳教育の推進と「命を大切にする指導」の充実が図られていたか。	A 3.7		A	A
	いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止の取組を進めていたか。	A 3.8		A	A
信頼される学校	ホームページやすぐーる、各種お便り等を通して適切な情報発信が行われていたか。	A 4	㊦情報発信や安全確保における仕組みを整え、適切に情報を届けた。児童の安全・安心のため、保護者と連携しながら組織として迅速かつ確実に対応した。 ㊦施設・用具の安全確保と収納改善を進め、接触事故等を防ぐための環境整備や安全対策を講じる。	A	A
	家庭・地域・パートナー校と連携した活動の充実が図られていたか。	A 3.8		A	A
	校内外の整備が行われ、子どもが安心・安全に過ごすことができる環境が整っていたか。	A 3.8		A	A
ご意見	<p>本年度の自己評価に対し、学校関係者からは、教育目標である「人間性豊かな子どもの育成」に向けた組織的、丁寧な取組に対し、高い評価をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人関係の安全確保やいじめ防止への誠実な対応が、保護者・地域から大きな安心と信頼に繋がっている ・本校の伝統を大切に守りつつ、教職員が情熱を持って指導法のブラッシュアップに励む姿は、教育の質の向上を実感させる ・豊かな自然環境を活かした教育活動が「自然と共に生きる力」を育む貴重な財産となっている ・今後も盤溪小ならではの取組と魅力を発信するとともに、ICTの活用を目的化せず、児童の思考力や主体性を引き出すための効果的な活用への転換を期待している 				